



2021.8.12



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部: <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

==== 目次 =====

1 ■ 日本で育つ ■

乗り越えなくてもいいじゃない。壁とともに。

北海道大学大学院国際食資源学院博士前期課程

RI Shu

2 ■ 進学進路ガイダンス情報 (8、9 月) ■

3 ■ AJALT からのお知らせ ■

=====

1 ■ 日本で育つ ■

中学生で来日した李さんは、現在、北海道大学大学院で総合的な地域作り、町作り、農村振興の研究をしています。また、外国にルーツをもつ青年の支援組織「glolab」(※)の他、様々な活動に参加しています。しかし、日本語を学び、高校進学、大学進学、そして大学卒業後の進路の決定へと努力を重ねてきた李さんには、そのつど悩みがありました。李さんのお話、沢山の方に知っていただきたいと思います。

.....

乗り越えなくてもいいじゃない。壁とともに。

北海道大学大学院国際食資源学院博士前期課程

RI Shu

ちょっと前に夜ご飯でデリバリーを頼んだ時の話。

携帯を見てない間に配達員が道に迷ってるとのメッセージが来ていました。気づいたときはもう 10 分近く待たせていて、申し訳なくてわたしは慌てて「すみません、見損ないました！」と送り、受け取り場所に友人と一緒に取りに行きました。歩いている間に、友人にスマホを見せながら、こういうやりとりしたと説明すると、友人が驚いた顔してこう言いました。「物が届かなかっただけで見損ないましたって、ひどいよ。」かっこつけて「ああ、もちろん意味は知っていましたよ、打ち間違いです。」とごまかした私、実はこの時はじめて見損ないましたの意味を知りました。

日本に住み始めて 12 年目、5 年前に受けた大学入試センター試験の国語は 200 点満点で 190 点超えていたはずだが、知らない日本語はまだたくさんあります。

思い返せば、教育委員会主催の日本語初期指導で通った 3 か月間だけで、それ以降の日本語は、ほとんど周りの会話から拾って身につけました。音ベースなのでとんだ間違いもたくさんしました。持ち物で定規をジャージに間違えたり、アルバム撮影でブレザーとブラジャーと言い間違えたり。使役受け身の文法は苦手です。今でも使うときは反射的に濁しちゃいます。

でも、そんなのへっちゃらでした。日本語よりも高い壁がありました。水泳の授業で腋毛を注意されたり、運動会でお弁当を笑われたり、慣れない宿泊行事で落ち込んだり、日本語がわからない母と三者面談で受験のことできつく言われたり。中国にいればこんなことなかったのにと、まず理解・納得するのに苦しみました。高校に入ってから、周りを真似ることに慣れて、ほとんど壁を感じずに過ごしましたが、大学進学を機に、また新たな悩みに出会いました。それは進路選択のことです。

高校、大学と、周りと似たような選択をしてきましたが、大学卒業後考えたときに、選択肢がありすぎること、誰かの真似ができないことに気づきました。このまま日本に残って働く？それとも中国に戻る？海外に行く？親たちはどう考えてる？いずれにしても、そのためには何が必要、どうしたらいい？大学で周りに似たルーツの友達もいなく、気づいたらずっと一人でたくさんの「？」を抱えて悩んでいました。

幸い、大学の環境や親の理解に恵まれ、私は後悔のない選択をすることがで

きました。でも、「もっとはやくから悩む必要性に気づいていたらな。事情を理解してくれて、一緒に悩んでくれる人がいたらな。」とも思いました。

そんなことからわたしは今、特別非営利法人 glolab で、コーディネーターとして「みらいチャレンジプログラムという、外国ルーツ青少年向けのキャリア支援プログラムに取り組んでいます。

外国ルーツ青少年が、悩むべき時に悩める環境を作るために。私自身もまだ、将来に悩む外国ルーツ青少年のひとりですが、今までたくさんの方に支えられてきた分、後輩たちに返していければと思っています。できることは少ないですが、一緒に悩むことから、少しずつ、少しずつ。

(※) 特別非営利法人 glolab (グロラボ) の HP は以下のとおりです。

<https://www.glolab.org/>
